

1年

総合へ向けて“楽しさの創造と学習への責任”を育てる

『遊び名人になろう!』の実践

札幌市立幌西小学校 中池 徳幸

◆単元のポイント

○制限された条件の中で生み出され、発揮される創造性

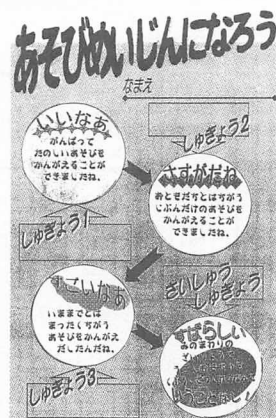
この単元は、遊び名人を目指して、制限された素材からその素材の特徴を生かした遊びを創り出したり、自分で材料を集めておもちゃ作りを行ったりと、子供にとって一番身近な“遊びと楽しさ”を題材とした構成になっています。修業ごとの名人認定証や評価基準ごとの色別ワッペンなどで子供たちの意欲と主体性を引き出したいと考えました。

○もう一度、子供を『遊びの天才』に

最近の子供たちは、自分たちで考えて遊びを創ることが苦手であるとかゲームに遊ばれているなど、遊びに対して受動的であり、自ら遊びを創り出すことが不得意であると言われています。そこで、場に合わせて、不足している道具や人数に合わせて遊びを創り出し、ルールを作り変えていけるような子供であってほしいという願いを込め、この活動を設定しました。

○生活化へ向けて

創造性というのはこの活動だけで育てられるものではなく、今回のような活動を数多く経験することによって、効果が出てくるのだと考えます。生活科以外でも、音楽科や図工科、体育科などで「人と違っていい、創り出すことに価値がある」という意識が育っていくことこそが本単元のねらいであると考えています。



◆単元の目標

○与えられた素材の中で、遊びを楽しく創り出そうとする。

(関心・意欲・態度)

○自分なりの遊びを工夫し、つくり上げたおもちゃや遊びを紹介したり、一緒に遊んだりする。

(思考・表現)

○素材の特徴や性質に気付くと共に、遊びを創り出した自分のよさや友だちのよさに気付く。

(気付き)

◆単元の構想（12時間扱い）

遊び名人になろう！

修業① “新聞紙だけで”

色別ワッペン

☆楽しい遊びを考えることができたよ。

→どんな遊びでもよいことを知らせ、自分だけの遊びを考えたい子を認める。

修業② “アルミホイルと芯だけで”

☆楽しい遊びを考えることができたよ。

☆友だちとは違う遊びを考えることができたよ。

*この2つのうちから子供との相談で1つを決める。

→材料を提示する時は子供の意欲を高めるように工夫する。

修業③ “ビニル袋とビニテープと紙コップだけで”

☆楽しい遊びを考えることができたよ。

☆友だちとは違う遊びを考えることができたよ。

☆今までとは全く違う遊びを考えることができたよ。

*この3つのうちから子供との相談で1つを決める。

→材料はできるだけ3つとも使うように声かけをしていく。

最終修業 “自分の決めたおもちゃを作ろう！”

☆身の周りの材料で動くおもちゃをつくる
ことができたよ。

→身近にある材料を使う。素材を楽しむだけでなく動くおもちゃを作る。

ポプラルームをプレイランドにして、みんなで遊ぼう！！

遊び名人になれたよ！！

◆実践するにあたって

本単元を行うにあたって、普段から身の周りには様々な素材にふれておくことも大切です。年度当初から、家庭で使わなくなった空き箱や牛乳パックなどを集め、子供たちがいつでも自由にそれらを使って遊べる環境を整えておくことも必要なことです。